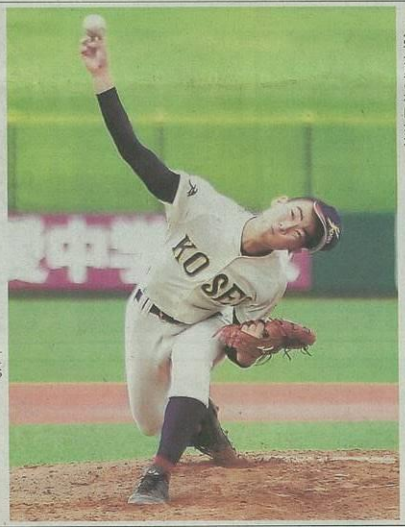

２０２０年（令和２年）　９月２７日　日曜日
デーリー東北　１３面　掲載

青森県
秋季高校野球
第4日

東北大会 八西初、光星は2年ぶり

秋季青森県高校野球選手権第4日は26日、弘前市のはるか夢球場で準決勝が行われた。八学光星は弘学聖愛に1点差で勝利。八戸西は青森にコールド勝ちし、来春のセンバツにつながる東北大会（10月14～20日・仙台市民球場ほか）の出場権を獲得した。東北大会出場は八学光星が2年ぶり23度目、八戸西が初。最終日の27日は同球場で3位決定戦と決勝を行う。3位決定戦では、弘学聖愛と青森が東北大会への残り1枠を懸けて対戦。決勝では17度目の優勝を狙う八学光星に、公立勢としては8年ぶりに準決勝を突破した八戸西が挑む。
（取材班）

きょうの試合
【弘前はるか夢】
▽3位決定戦
弘学聖愛－青　森（10・00）
▽決勝
八学光星－八戸西（12・30）

光星競り勝つ

【弘学聖愛－八学光星】3回八学光星2死一、三塁、佐藤航太が右中間に先制の2点三塁打を放つ＝はるか夢

準決勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
弘学聖愛	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4
八学光星	0	0	2	1	0	0	2	0	×	5

（弘）葛西、木村、町田－松坂
（八）太田、越田、渡部、横山－久守、織笠

▽三塁打　佐々木（弘）佐藤（光）▽二塁打　佐藤雄、高木、木村（弘）伊藤、吉村（光）▽暴投　太田（光）▽試合時間　2時間20分（球審＝工藤学、塁審＝小松、長浜、石田）

【評】八学光星は同点に追い付かれて迎えた七回、敵失と送りバントで2死二塁の好機に、佐藤、吉村の連続適時打で2点のリードを奪った。八、九回は4番手の横山が反撃を1点にしのいだ。弘学聖愛は五回以降、しぶとく追い上げたが及ばなかった。

緊迫の展開 冷静、確実に

ハイライト

1点を争う緊迫した試合展開でも八学光星は冷静に、そしてしっかり勝利を手繰り寄せた。一時は同点に追い付かれたが、「自分たちの打力を信じた」（伊藤巧将主将）。攻守で「試合巧者」ぶりを発揮し、2年ぶりの決勝進出と東北大会出場を決めた。

序盤に3点のリードを奪い、優位に試合を運んだ。以降、ピンチを招いても前進守備はせず、「1点OK」のシフトを敷いた。結果的に内野ゴロなどで得点を許したが、伊藤主将は「（五～八回は）最少失点に抑えたことが良かった。点を取り返せる自信はあったから」とうなずいた。

裏付けるように同点とされた直後の七回に好機はやって来た。2死二塁、打席に立ったのは、準々決勝でサヨナラ打を放った佐藤航太。得意の直球を中前に運んだ。「思い切り振り抜いて、狙い通り外野に飛ばすことができた」と満面の笑み。続く吉村航成の二塁打で自らも生還し、これが決勝点となった。

1点差の勝利に、仲井宗基監督は「ずるずると大量失点しなかった点は良かった」と評価。ただ、2点を奪ったとはいえ、無死一、三塁から1、2番が2者連続三振だった三回の攻撃には「内野ゴロを狙うなど、最低限の仕事で点を奪う姿勢を見せないと」と手厳しかった。

（上村公悟）

【弘学聖愛】	打	安	点	振	球
⑥長　利	4	0	2	2	0
④工藤遼	5	0	0	1	0
⑦佐藤雄	3	1	0	1	1
③佐藤海	3	1	0	1	1
⑤高　木	3	1	0	0	0
⑨町　田	2	0	1	0	2
①葛　西	1	0	0	0	0
H工藤良	1	1	0	0	0
R三　上	0	0	0	0	0
1木　村	2	1	1	0	0
②松　坂	3	0	0	3	1
⑧佐々木	3	1	0	2	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
3	0	1	0	7	30	6	4	10	5

【八学光星】	打	安	点	振	球
⑧北　浦	4	0	0	1	0
⑤吉　川	3	2	0	1	0
⑦佐　藤	4	2	3	0	0
③吉　村	4	1	1	1	0
⑨野　呂	4	1	0	1	0
9松　本	0	0	0	0	0
②久　守	1	0	0	0	1
2織　笠	2	0	0	0	0
⑥奥　名	3	0	0	0	0
④伊　藤	3	1	0	1	1
4小　坂	0	0	0	0	0
①太　田	1	1	0	0	0
H中　江	0	0	1	0	0
1越　田	0	0	0	0	0
1渡　部	0	0	0	0	0
1横　山	1	0	0	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
3	0	0	0	6	30	8	5	5	2

投　手	回	打	安	振	球	失
葛　西	4	19	5	4	2	3
木　村	3	13	3	1	0	2
町　田	1	3	0	0	0	0
太　田	4	15	1	5	2	0
越　田	1⅓	8	2	0	2	2
渡　部	1⅔	4	1	1	0	1
横　山	2⅔	11	2	4	1	1

【弘学聖愛－八学光星】4番手としてマウンドに上がり、2安打1失点だった八学光星の横山永遠

4番手横山、好救援

○…八学光星の4番手として七回途中からマウンドに上がった横山永遠。最速142㌔の直球とチェンジアップやスプリットなどの落ちる球を駆使して、弘学聖愛の終盤の追い上げを1点にとどめ、勝利に貢献した。

横山は「打たれても味方が返してくれると信じ、捕手だけを見て投げ込んだ。最後の打者を三振に打ち取った時はほっとした」とはにかんでいた。

デーリー東北新聞社提供